

自然を語る会

## 『沈黙の春』12章 「人間の代価」

2024年1月20日(土) 10:00~12:00

Zoom+飯田橋ボランティアセンター

参加者 16名

担当：西野翠さん

12章は、「かつては神のたたりと恐れられた伝染病は消えたが、別の悪魔がそこかしこに潜んでいる」ということから始まります。人間の作り出した化学薬品を日常的に取りこんでしまった人間はどうなっていくのだろう・・・

日本と欧米での中性洗剤の使い方の違いが話題になりました。向こうはパン食なので、食べた後のお皿はパンできれいに拭いて食べてしまう。その後中性洗剤で洗うが、水でゆすぐことなく乾かしてしまうとのことでした。洗剤が日本と違って薄めに作ってあるのだろうか？ 確かに、日本の中性洗剤は薄めて使う方式だが、わざわざ薄めて使っている人はいないのではないか。また、注意事項が書いてあっても、あまりに小さい字で読めない（このことはレイチェルも指摘していますね）など、生活感が溢れる話に進みました。今度実際に海外で使っている洗剤ラベルを日本のものとくらべてみようと思います。

SDGsな生活を目指しても、自然素材の物をなかなか売っていない、という話題も。セーターなど、100%ウールのもは見かけないという疑問も出た。消費者が積極的に探しにいかない、難しいようです。実際に買っている方から、無印ではありますよ、などというアドバイスも。『新・地球とからだに優しい 生き方・暮らし方』（天笠啓祐著）の紹介もありました。

企業によるネイチャー・ポジティブの動きも紹介がありました。企業に関わることで、世の中を変えていくには必須だと思います、ただ、消費者はその動きもきちんと判断しなくてはならないという声もありました。

心の健康の話も話題になりました。心の健康にはストレスがかからないことが大切ですが、千葉の大学での調査で、一定時間何人かの人を自然のなかに置き、その前後の血圧を測ったという報告がありました。高血圧だった人は自然に触れた後に血圧が低くなり、血圧が低すぎた人は高くなる、そして正常値だった人は正常値のままだったということです。心に対しての自然の治癒力を感じさせる結果です。

今回も『沈黙の春』を肴に、いろいろおしゃべりが噴出しました。これもまたストレス解消に良かったのではないのでしょうか。

本日は奥多摩セラピーガイドの方の参加もありました。

(小川記)